

## 光星学院野辺地工業高等学校

住所 上北郡野辺地町枇杷野51の6

生徒数 男子七八九名 女子三五三名

部員数 男子八名

顧問 長澤 秀樹

まず、本校の概況を述べますと、本校は、昭和48年4月15日に第一回の入学式が挙行され、ちょうど今年（平成4年）で、20周年を迎える、国道4号線から、山手の方に車で5分程入った所に位置する、美しい緑と山に囲まれた学校です。

野辺地という町は、ちょうど下北半島のつけねに当たり、南部藩と津軽藩との境にもなっており、交通の要所として、また商業文化の町として、古来から、青森県においても有数の町として、栄えてきました。

現在生徒数は、千百名余りですが、その通学範囲は非常に広く北は、下北半島の最北端尻屋から、南は、三沢市、十和田市、また、津軽半島からも通っており、生徒の大半は、学校の所有するスクールバスで通学しています。通学時間が2時間以上もかかる生徒もおり、毎朝の起床、そして、弁当の用意等、それを3年間続けるということが、いかに大変な事か、想像に難くありません。また、下北半島は、冬期には、度々猛吹雪になり、そのため、スクールバスの運行が遅れることもあります。

本校は、当初は工業高校として発足しましたが、2年目からは普通科も設置され、現在は、機械科、電気科、建築科、自動車科、

情報科、普通科、保育科の各科からなっています。情報科は、情報化社会、コンピューター社会という社会的必要性から、昨年（平成三年）に初めて設置されました。

さて、いよいよ本校の空手道部の紹介に入りますが、我空手道部は、3年前に退職された坂本実先生によって、昭和57年に生まれました。坂本先生の退職後、小又先生が一年間、そして、その後を引き継いで、現在私が顧問として、2年目になります。これまでの、高校総体での最高の成績は、平成元年の県大会でのベスト8入りです。この時の試合は、私も応援してりましたが、2年の平野君の鋭い足技が強く印象に残っています。

現在の空手道部ですが、必修クラブ活動においては男女合わせで40名程度部員がおりますが、前にも述べましたようにほとんどの生徒が遠い地域から、スクールバスで通っているため、やる気があっても、放課後練習に残れない者が多く、数名の者が、そうじ終了後から、スクールバス発車までのわずか30分〜40分の間に練習をしているという状態です。週3日間、一日40分程度の必修クラブの練習時間として、スクールバス発車直前の30分程の練習です。基本をじっくりやっていられないという状態です。今年の高総体に出場するメンバー5人全員が、高校に入学してから空手を始めたのであり、本来なら、放課後、部活動として2時間程、みっちり基本からやるべきなのですが、とにかく練習時間が極めて少ないという理由から、それから顧問である私の考え、「組手に強くなるには、組手をなるべく多くこなし、組手に慣れるしかない」という信条から、自由組手中心の練習になっています。選

手5名の内、一年生は2名で、どちらも初心者ですが、週4日から5日の、短い練習時間で、わずか一ヶ月余りという期間に、まだ未熟ながらも試合をできるようになったのは、最初から組手をやらせたからだと思います。勿論、基本的な打ち方や、足の運び、さばき等は、教えました。が、外受け、内受け、騎馬立、後屈立、猫足立、前屈立といった言葉もまだ知らない状態です。ですから、型に関しては、私自身もよく知らないせいもあって（何しろ私自身の空手の経歴が、本校に6年前に勤務することになり、そこで坂本先生に教えられたのが、最初なのですから）、全く教えていないという状態です。



ただ、練習場には、サンドバッグをつるし、パンチミットやキックミット等を用意し、必ず、それらを打たせたり、けらせたりするようにして、実際に当たった時の感触を覚えさせるようにしています。これは、試合では寸止めルールが採用されているとはいえ、空手は本来格闘技であるという私の考えから、練習に取り入れているものです。なお、

挙立てや、腕立てふせ等の筋力トレーニングは、各自自宅で行

ように指示しております。

なお、一年生2名の内、一人は、青森市から通っておりますが、両親の許可を得て放課後部活動ができるようになり、現在はスクールバスが出発してからは、私と彼との二人で毎日汗を流している次第です。空手道部の顧問として今年で二年目になりますが、やはり、少なくとも5、6名の者が毎日、放課後残って練習をできるようになればと願ってやみません。しかし、そうできないでしょうもない現実もあります。とにかく、来年（私ももう三年目になりますので）こそは、一人でも多く放課後残って練習できるように空手道部に育てることが私の仕事です。

さて、最後に空手の素人として切に願っている事が一つあります。それは、現在市販されている空手に関する著書は数多くありますが、私の目に触れた限りでは、試合に勝つための技術を明かした本は、フルコンタクト空手に関しては一冊のみ、寸止め空手に関しては、皆無のように思われます。実際の試合においては、いわゆる下投払いで受けたり、こぶしをにぎったまま内受け、外受け等を行うことは有り得ませんし、さばきはほとんどの者が、開手で行っています。要するに、試合で実際に役立つ技術、試合でポイントを取ることでできる技術、試合でのさばき方、攻め方、カウンター等々、試合で勝つためのテクニクを書いた本があれば各校の技術もさらに上がるのではないのでしょうか。20周年を機会に、各校の顧問のこれまでの経験を生かし、試合に勝つための技術書を作っただけだと、切に願うものであります。